

## 2021年度事業計画

### I 役員会議・主要行事等開催計画

区分	時期	内容
理事会	2021年 6月	2020年度決算報告等について 評議員の選任について
	9月	執行状況の報告等について
	12月	執行状況の報告等について
	2022年 3月	2022年度事業計画等について
評議員会	2021年 6月	2020年度決算の承認等について 評議員・理事・監事の選任について
監査	2021年 5月	2020年度業務・会計の監査

#### ○財団設立30周年記念事業

2021年9月26日、一般財団法人くにびきメッセは設立30周年を迎えるにあたり、関係者をして招待しての記念式典を開催する。

- ・期 日 2021年冬(予定)
- ・場 所 くにびきメッセ
- ・内 容 記念式典、記念講演

## Ⅱ コンベンションビューロー事業

本県におけるコンベンション開催件数は 2015 年以降 150 件を超えるコンベンションが開催されたが、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により壊滅的な状況となった。当然近年注力してきた国際会議の開催も皆無であった。

しかし、昨年度開催予定のコンベンションの今年度へのスライド開催が予定されたり、数年後の国際会議の問合せに関しては堅調な状況である。当ビューローでは県内の様々な業種・団体と協力し、地域の活性化や国際化の推進を図るため今年度も積極的に事業を推進する。

コンベンション誘致の具体的な目標としては、引き続き年間の主催者訪問・接触目標件数を 1,000 件と定め、関係団体・大学等への訪問活動を実施し、コンベンション誘致に努める。

### 1. 誘致事業

当ビューローが独自に構築してきた「コンベンション・データベース」の情報を活用し、県内の団体及び大学等の関係者はもとより、首都圏・関西圏等の県外主催者に対し訪問・接触活動を実施する。特に今年度はコロナの影響があることを踏まえ、実際の訪問と並行して、電話やメールでの接触を試みる。首都圏での誘致活動は、引き続き駐在員を常駐させ訪問活動を念頭に行うが、同じく電話・メールでの接触でもコンベンション開催の働きかけを行う。

また国際会議に関しては、今までに県内で国際会議を開催していただいた主催者を中心に構成した「くにびきメッセファンクラブ」の会員からの情報や紹介、及び国内で開催される商談会などへの参加を通して、本県への誘致を行う。

#### (1) 国内コンベンション

- ① 当ビューローも加盟する中国・四国地区のコンベンション推進協議会(会員数 14 団体)が開催する「中国・四国地区コンベンション推進協議会誘致懇談会」に参加し、国内のコンベンション主催者との新たなネットワーク構築と商談会を通して県内へのコンベンション誘致を行う。

会 期 : 12 月 2 日 予定

会 場 : 東京(品川プリンスホテル)

主 催 者 : 中国・四国地区コンベンション推進協議会

- ② 連携協定(2014 年度締結)を結んでいる益田市をはじめとし、県西部の自治体とも連携し、県西部へのコンベンション誘致を図る。

#### (2) 国際会議

- ① コンベンション開催のキーパーソンとなる主催者を島根県に招請し、コンベンション会場や宿泊施設等の視察などを行ってもらい、本県へのコンベンション誘致を図る。
- ② 「くにびきメッセファンクラブ」会員からの案件情報の入手と、新たな国際会議の紹介を受ける。

- ③ 国際会議のコンベンション・データベース情報の精査を行うとともに、インターネットによる調査や誘致活動により得た情報を加える。
- ④ 国内のコンベンション主催者との商談会として開催される「国際MICEエキスポ (IME)」と、海外の主催者を日本に招請し、国内のコンベンション開催都市の視察と商談会を開催する「国際会議海外キーパーソン招請事業(Meet Japan)」に、引き続き参加し商談会を通して県内へのコンベンション誘致を行う。

「国際 MICE エキスポ (IME)」(予定)

会期・会場 : 未定

主 催 者 : 日本コンgres・コンベンションビューロー(JCCB)

「国際会議海外キーパーソン招請事業(Meet Japan)」(予定)

会期・会場 : 未定

主 催 者 : 日本政府観光局((JNTO)

### (3) 大学クラブ・サークル合宿の誘致

大学のクラブやサークル合宿の誘致を推進するため、松江市内のホテル・旅館で実施される関西方面などの合宿専門の旅行会社等への誘致活動に協力し、合宿誘致を推進する。

## 2. 企画事業

### (1) 賛助会員企画

くにびきメッセ賛助会員に、コンベンションビューローの事業内容を知ってもらうとともに、会員のビジネスチャンスが得られるような企画を実施する。

会 期 : 2022 年 3 月 予定

### (2) 「くにびきメッセファンクラブ」交流会の実施

島根県内で国際会議を開催された県外の主催者及び関係者を中心に「くにびきメッセファンクラブ」(会員数:222 名)を組織化している。この会員から新たな国際会議の情報収集や紹介、会員相互の交流を図るため、関西、首都圏及び九州で開催している交流会を、今年度も引き続き開催する。

大 阪 : 2021 年 8 月 開催 予定

九 州 : 2021 年 11 月 開催 予定

東 京 : 2021 年 12 月 開催 予定

### 3. 調査事業

#### (1) 「コンベンションデータベース」の整備

コンベンション誘致活動の基礎となるコンベンションデータベースの精度を上げるため、インターネットによる調査や、誘致活動により得た最新の情報をコンベンション・データベースに反映させアップデートを図るとともに、新たなコンベンション・データを「日本コンGRESS・コンベンションビューロー (JCCB)」から購入しデータベースに加える。

(現在のデータ件数:約 12,676 件)

#### (2) 新たなユニークベニューの開拓

国際会議で主催者に提案できる魅力的なバンケット会場(ユニークベニュー)を増やし、主催者の選択肢を広げるため、新たなバンケット会場の開拓を行う。

### 4. 広報宣伝事業

#### (1) コンベンション情報誌「神々の郷」の発行

当ビューローの最新の情報や今後開催されるコンベンション予定をコンベンション情報紙「神々の郷」として発行し、コンベンション主催者、大学関係者、賛助会員等に配布する。

発行部数 : 1,900 部/回

発行回数 : 4 回/年

#### (2) ホームページの更新

コロナ禍の中、ますます重要になっている Web における情報、その中でもやはりホームページは重要なツールである。前回リニューアルしてからほぼ10年が経過したので、大幅な更新を実施する。

### 5. 支援事業

#### (1) コンベンション主催者への支援

島根県内においてコンベンションを開催される主催者に対して支援を行う。

- ① 会議施設、懇親会場 (ユニークベニューを含む) の紹介、手配
- ② コンベンション開催支援の補助金交付
- ③ 歓迎看板、郷土芸能の提供
- ④ エクスカーション用バス(コンベンション観光バス)の補助金交付
- ⑤ 英語ボランティア、茶道ボランティアの手配
- ⑥ 観光パンフレットの提供
- ⑦ くにびきメッセを会場として開催されるコンベンションへお茶席の設置と抹茶・和菓子の提供
- ⑧ コロナ関連の対策情報の提供
- ⑨ コンベンションに関連する各種業者の紹介

(2) 「くにびきメッセ英語ボランティア」の活用

くにびきメッセで組織化している「くにびきメッセ英語ボランティア」を活用し、国際会議が円滑に開催できるよう主催者へのサポートを実施する。

6. その他

(1) MICEに関する情報共有

県内のMICE関連団体との連携及び情報共有を目的として開催される会議に参加し県内のMICE関係者との連携を強化する。

(2) 県人会、経済倶楽部との連携

「島根県経済文化振興会」の産業、学術、スポーツなど各般にわたる人的交流ネットワークを活用して、コンベンションの誘致を図る。

(3) コンベンション誘致人材育成

コンベンション誘致を担当する職員のスキルアップを図るため、日本政府観光局(JNTO)及び日本コンGRESS・コンベンションビューロー(JCCB)が主催する人材育成研修に参加する。

「JCCB 上期人材育成研修・MICE セミナー(初級者研修)」

日程・会場 : 未定

主催者 : 日本政府観光局(JNTO)

日本コンGRESS・コンベンションビューロー (JCCB)

「JCCB 下期人材育成研修」

日程・会場 : 未定

主催者 : 日本コンGRESS・コンベンションビューロー (JCCB)

## Ⅲ 県立産業交流会館の管理運営

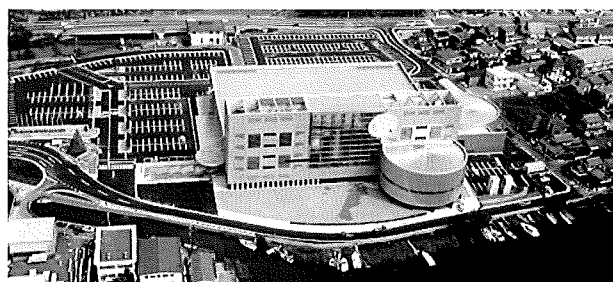
2020年度の会館利用は、年度当初からの新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、2月以降多数の予約のキャンセルが発生した。そのため、数値目標(稼働率39.0%、利用件数1,800件)を大きく下回り、稼働率は、18.4%(2月11日時点)利用件数は、約1,000件に留まる見込みである。

2021年度については、新たな需要に対応した下記の2つの利用促進策をはじめ、施設の積極的な利用を促す施策を打ち出し、かつ経費の削減にも努め、収益性の向上に最大限努力する。

[2021年度数値目標]

会館利用率…… 30.0%

利用件数…… 1,600件



### 1 施設運営

#### (1) 施設の利用促進策

##### ① Web会議における専用通信回線の利用プランの実施（新規）

コロナ禍の影響により昨年来急速に増加しているWeb会議に対応して、それに必要な専用通信回線の増設、館内のWiFi設備を更新等のハードを整備し、それについての新たな利用プランを設け、利用者に積極的に推奨していく。

##### ② 大展示場の試験会場としての利用プラン（新規）

コロナ禍の影響により、資格試験や入学試験に利用されていた大学の施設が現在利用できず、かつ感染予防のために広い会場が必要となることから、昨年来当館の試験会場としての利用が増加した。この需要をさらに取り込み、かつ大展示場の利用を促進していくため、新たに試験会場の利用者に対するプランを設け、積極的にPRを行っていく。

##### ③ リピーター対策

当館のリピーターに対して積極的かつ戦略的な営業活動を行い、上記利用促進に関するプラン、及び会館で現在実施している感染予防策をアピールし、リピーターのつなぎ止めに努める。

##### ④ テナント空室対策（新規）

テナント入居を促すために、ホームページにて空き状況の公開や島根県が行っている企業誘致と連携するなど、積極的な営業・広報活動を行い入居率の向上に努める。

空室：3階事務室(88.1㎡)、4階事務室(245.7㎡ 2月末退去予定)

5階事務室(244.0㎡ 5月末退去予定)

## (2) 感染症予防対策

昨年から行っている感染症予防に関する各種対策を引き続き継続し、利用者、来場者への協力もお願いしていく。また利用者の感染予防のための負担を軽減するため、感染予防に関する各種ツールを無料で貸し出し、またコロナ禍での催し物開催のために必要なノウハウを、事前打ち合わせ等を通じて紹介していく。

## (3) 広報宣伝活動

### ① ホームページを通じての情報発信

従来、施設・設備の内容や、当館で開催される催し物に関する情報のみでなく、本年度新たにホームページ内に設けた新型コロナウイルス感染症関連の専用ページを通じて、主催者が催し物開催のために必要とされる下記の情報を発信していく。

- ・施設利用に関する感染症対策の方法及びガイドライン
- ・感染予防に関する施設からの貸し出し備品の紹介
- ・コロナ禍において開催された各種催し物のレポート
- ・フィジカル・ディスタンスを考慮した会場レイアウトの紹介
- ・感染予防に関する各種機材の取り扱い会社の紹介

### ② 地元タウン情報誌（「Lazuda」）、業界誌（「MICE Japan」）への催物情報の提供

### ③ コンベンションビューロー事業で発行する「神々の郷」を通じての情報発信。

## (4) 人材育成

- ① 「全国展示場連絡協議会」、「国際会議場施設協議会」の会議、研修会への参加
- ② 他団体（島根県自治研修所、島根県公社等協議会）の実施する研修会への参加
- ③ 「危機管理マニュアル」に基づいた災害対応の研修の実施
- ④ 関係機関と協議のうえ、法定訓練等の実施
- ⑤ 職員各自のスキル・アップのために、各種オンラインでのセミナー等への参加

## (5) 横浜国際平和会議場(パシフィコ横浜)との連携

平成22年度より、施設の運営ノウハウ等の情報交換を行うための協定を締結している。国内の先進的コンベンション施設である「横浜国際平和会議場」(パシフィコ横浜)において実施される職員研修に参加する。